

みのり保育園創始者の帰山祐子の夢は果てしなく続きますが、保育園の卒園児らのために始めたボーイスカウト活動などに使える自然体験教育施設の適地を求めていましたが、その好機が訪れたのは昭和55年(1980)11月のことです。

そして、勝ち気な心で病身を包みながら超多忙の活動を続けていた帰山が、翌年4月には開拓の具体案を練り上げ多くの賛同者に冊子「大自然のひろば」を送って支援を呼びかけたのです。ここで、その呼びかけを採録してみました。

~~~~~

冊子「大自然のひろば」=おねがい=

★ 子どもたちに"大自然のひろば"を提供したいのです。

★ あなたもどうか一口、お力添えくださいませんか

《一つの契機》

昨秋、疲労と検査で入院したあとの快復にかねて知っている長野県佐久の山の中にある鉱泉で10日程過しました。なかまからぜいたくだと云われながらも、いくつかの病名のもと、十数年間医師とも薬とも縁の切れない私にとって、2年に一度くらいは余儀なくされた生活なのですが、これがきっかけになるうとは神ならぬ身の予測もできないことでした。

晩秋のから松林の山道を散策しながら、こんな所へ子どもたちを連れてきたい念願にかられ、真剣な祈りになったものでした。

ふとした話から、このあたりに少ない民有地の地主さんに紹介され、そういう目的なら売ってもよいという話になりました。帰京後、法人理事会を開いて話し合い、一方、ボーイスカウトのリーダー達と、キャンプ地の適否を検分したり、理事たちと下見、交渉を重ねました。そのうち当地の農協の幹部の方々から、市教育長はじめ各方面に話が進められ、地元としても青少年育成や環境浄化のためにも大変良いと、趣旨に賛同され、各方面に便宜をはかってくださることになり、三月には水源調査を実施する運びになりました。

永年の夢が一挙に実現の方向にむかって躍動を開始するところです。各方面の御厚情に感謝しながら、早く本格的に進めたいと決意いたしました。

《かねてからの願望》

山、空、水、木、土、草、虫……。こう並べてみますと、どれ一つをとっても、ふれ合いの少ない都会っ子たちです。特に、これらを抱いている大自然の中で、深く呼吸をし、からだを使い、自由に動き廻ることが、子どもたちの体質改善に、性格向上に、つながってくることは、現代の教育を憂い、次代の子どもたちの行手をお考えの方にとっては、一度ならず触れられた問題と思います。

若い時から山好きで、苦しい時、疲れた時に山ふところを散策するだけで慰められ、勇気づけられた想いをもつ私にとって、子どもたちを自然の中に連れ出す願望は、保育園づくりにも匹敵する根深いものでありました。

青空保育を開始してから、早くも22年目の春を迎え、「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい。」(聖書)を保育指針に、300人の子どもを送り出しました。今でもたくさんの卒園生と親しいおつき合いがあって幸です。

社会福祉法人として、認可を受け、鉄筋園舎の落成をみてから10年、保育園の運営も、職員の研鑽とチームワークによって軌道にのってきた2、3年前から次の大きな仕事として"林間教室"



大自然の山荘"キャンプ場"……名称はともかく、このような楽しい場を子どもたちのために残したい、と切望しておりました。

#### 《子どもたちと自然》

子どもたち、というのは私にとって、もちろん、みのり保育園の園児、卒園生、そして保育園を本部としているボーイスカウト豊島12団のカブ、ボーイ、シニアのスカウトたち、若いリーダー、これらが私の身の廻りにいる最も親しい子どもたちです。しかし、今私が言いたい子どもたちは、もっとサークルを拡げて、池袋本町の、そして、豊島区ー東京の、大自然を求めている子どもたち、そして大自然のすばらしさを識り、その中で育つ子どもたちの可能性を信じ、幸せを願うおとなたちもみんななかまになってほしいのです。

子ども時代の育ち方、環境がおとなになってからの人となりに深く関わりのあることはどなたも御承知でしょう。私は21世紀を背負っていく今の子どもたちに大きな期待をします。

期待する以上、手放して楽観してはいられません。その一つ的手段として、少しでもかわりのある子どもたちを手始めに、子どもたちの将来を本気で考えている親とその廻りのおとなたちに自然とのふれ合いをすすめます。みんなに、山を歩き、星空を仰ぎ、木の芽を発見し、虫を愛し、土に親しんで、自然をはぐくむ生き方をしてほしいと思います。そんな生活を幸と思うゆとりをみんなで持ちたいと思います。

"家庭内暴力"とか"校内暴力"とか、悲しい現象が増え、その原因が問われ、おとなの姿勢が浮き彫りにされてきます。小さい頃の育ち方ーいわば生育歴が問題とされてきました。自然を愛し生命のふしぎに目を輝かせ、たった一つのいのちを尊ぶ心が育てられていたなら……

私もニュースを憂う一人なのです。

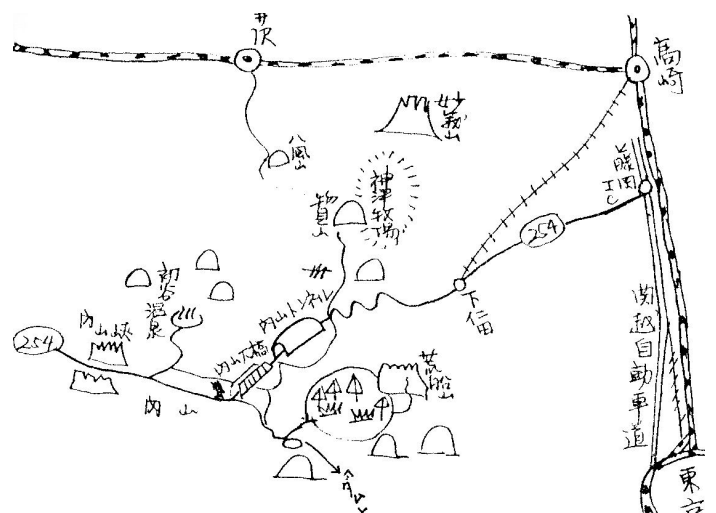
#### 《しめ出される教育的キャンプ》

私も保育園では、前記のような趣旨によって、12年前から高麗清流園という区立の林間施設で、夏のキャンプを2泊くらい実施しています。私鉄で1時間余りの郊外ですが、それは楽しいものです。しかし、安くて手頃で、知名度が高くなるにつれ、最近は多数の抽選でなかなか希望日に使えません。さりとて一般の宿は金が交通費共々上る一方、しかも団体客と泊り合わせて、演歌や酔客の騒音で眉をしかめることもしばしば。園児も卒園生も、またボーイスカウトでも毎年キャソブ地探しに大童です。

都会化、レジャー化、その中で純粋な教育的キャンプをしようとするのがまちがっているのでしょうか。何者にも阻まれることなく、大自然のみをともだちとして過す数日間に、子どももおとなも心洗われ生き生きと、新たな息吹きを生活に吸き込もうと、望むのは無理というものでしょうか。

#### 《どんな所か御紹介します》

関越自動車道を藤岡I・Cで西におり、国道254号線で下仁田をすぎて内山トンネルを抜け大橋を渡るとすぐ左折して山道に入り車で5分、荒船山の西側の山林です。東京から車で約3時間、将来関越道が伸びるに従って短縮されましょう。鉄道では信越線小諸から小海線中込駅下車、バスで20分です。国道から僅かに入っただけで全くの深山、から松の国有林に三方を囲まれた3,300坪の明るい台地で、兜岩山が目の前にのっしと坐っています。春にはタラの芽やワラビが群生し、秋にはキノコやヤマブドウが取り放題、ウサギ



やムジナやキジバトが遊びに出るとのこと、1月の下見の時も深い雪の上に、ウサギの足跡とふんが点々と……。たのしいですね。ここを基地としたハイキングコースやドライブコースもたくさんあります。

ここへ、鉄筋やモルタルでなく、自然を活かした山小屋風な木造りで、100人くらいのロッジを建て、そのほかにバンガロー、野外炊事場、水場などをつくり、一部を整地して集会用広場やテントをたてるキャンプサイト、自然木を利用した遊び場やヤマブドウの菜園など、自然の中の文化的でない生活の設計を考えます。

#### 《資金上の問題点》

当初の計画ではせめて千坪内外、私ひとりで子どもたちに提供できる場所を、と探していたのですが、当地は希望より3倍以上の広さです。

私個人が資産があれば問題ありませんが、保育園長の給料では借入金も最低限です。けれど各方面に助成、融資、寄付等の道も交渉中です。

助成金の条件として法人であることが第一なのですが、社会福祉法人の範疇で、子どもの林間施設や児童の育成が可能か「福祉」の解釈や社会福祉事業法をめぐって目下研究に取り組み中です。東京都および助成団体の何人かの方から厚意ある助言もいただいています。

もう一つの問題は、現在は認可のための一法人一施設として「社会福祉法人みのり保育園」になっていますが、一保育園の採量でこの大事業を経営することはできませんので、法人の名称変更を含め交渉準備中です。

#### 《あなたも出資者になってくださいませんか》

検討の結果、前記の交渉や研究と併行して、土地購入のために有志の御協力を仰ぎたく次のような計画をいたしました。

事業計画 大自然のひろば（仮称）建設

土地 長野県佐久市内山 山林3,300坪

価格 坪5,000円 計1,650万円

資金 一、公共団体他助成金（申請中）

二、社会事業関係融資（交渉中）

三、理事長個人出資（一部借入金契約）

四、一般募金

一口1万円とし、分割でも結構ですし、幾口も応じて頂ければ尚幸です。

期日 昭和56年9月末日

今、物価高でどこでも暮しにくい時世、寄付をお願いすることは困難な計画ですが、この“ひろば”の実現に際して次のような夢を共有していただきたいのです。

完成したキャンプ場（または山荘、野外センター等名称は考慮中ですが）は、保育園児や学校のグループ、地域の子ども会、福祉施設の皆様方の自然探究や休息に、またボーイスカウト、スポーツグループの野外訓練などの場として常時公開するほか、個人的にも、大自然の愛護とここに集まる者は皆なかまだという気持を共有してくだされば、御家族でもグループでも御利用ください。

募金に御応募くださる前提として次のような計画も考えております。今、土地購入のために御出資くださる方には、キャンプ場完成の後御利用の際に割引券を発行すること、希望の日に優先的に使用できること等の特典のほか、10年後に、必要な方には御請求があれば、利息はつけませんが全額御返金中上げるという方法も取入れます。みんなで、いろいろな案を効果的に組合せて考慮中です。

どうかあなたも以上の願いをおきき届けくださって"大自然のひろば"を夢見て実現させるなかまになってくさいませんか。有志たちはもう夏に向かって早くも測量や開拓の計画を練っております。

おひとりおひとりお訪ねしてお願い中上げるところですが、取りあえず趣旨を御理解いただくために、文書をもってお願い中上げました。

詳しくお聞き願えますならば、資料をもって参上いたしますので御連絡いただければ幸いです。

尚、分割でお願いできる場合は期日後にわたりましても結構でございます。

昭和56年4月

社会福祉法人 みのり保育園

理事長 帰山 祐子